

板橋区内居住地における 空間放射線量の推移(3)

立川賢一・平田 晃

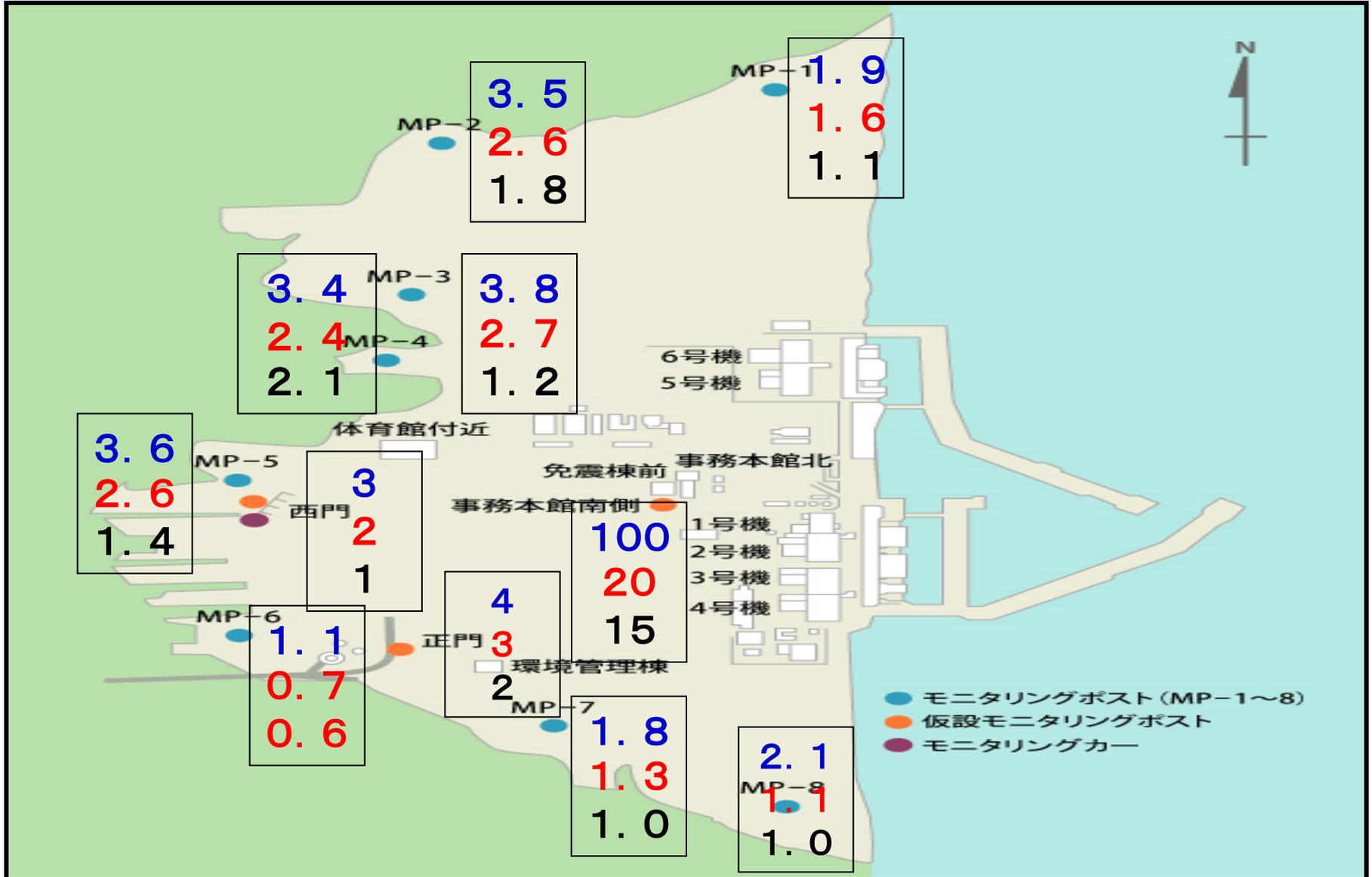
いたばし・まちの環境発表会

平成29年3月5日

背景写真:週刊朝日臨時増刊アサヒグラフ2011.3. 30号

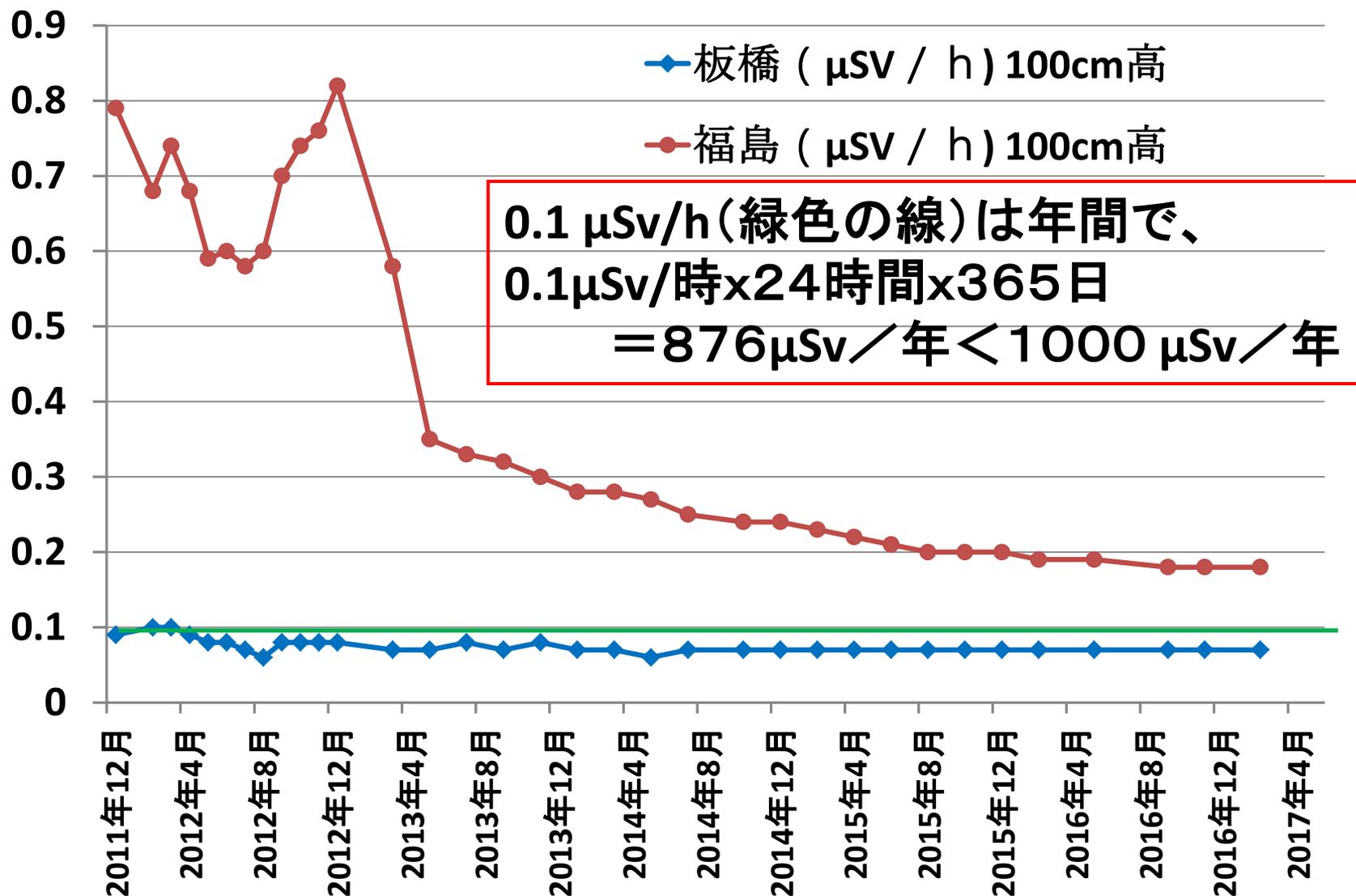
福島第一原子力発電所の空間放射線量 ($\mu\text{Sv}/\text{h}$)

2015年2月25日(青字)、2016年2月27日(赤字)、2017年2月22日(黒字)
 (原子力規制庁のデータを引用)



福島市と板橋区における空間放射線量 ($\mu\text{Sv}/\text{h}$)

＜福島市と板橋区の測定データを引用＞



＜空間放射線量測定の動機と目的＞

1. 2011年3月11日に発生した**福島第一原子力発電所の事故**により拡散した**放射性物質**が板橋区の四葉、徳丸地域でどの程度に**環境を汚染**し、どの様に推移するのかを調べました。
2. 住宅地、道路、公園、農園などにおける**空間放射線量**を自らの手で測定して、**影響の程度を実感**することにしました。
3. **測定データを公開**し、区民の皆様と共有し、測定値に関して話し合うことを通じて板橋区内居住地における**放射線汚染の現状理解**に努めることを考えました。
4. **放射性物質**が板橋区内居住地における**生活環境の汚染と破壊に繋がる重大な要因**のひとつであると考えていきたい。

<測定方法>

1. 環境放射線モニター PA-1000 Radi: 板橋区環境保全課公害指導係から借用
2. 測定位置: 地面から100cm高および1cm高(地面)
3. 空間放射線量<単位: マイクロシーベルト($\mu\text{SV}/\text{h}$)>:
30秒おきに5回測定し、3~5回目測定値の平均値とする
4. 測定場所: 板橋区四葉と徳丸地域の住宅地、公園、道路等
5. 測定間隔(1): 2011年12月から2013年1月までは、毎月1回測定
6. 測定間隔(2): 2013年3月から2016年2月までは、2ヶ月に1回測定
7. 測定間隔(3): 2016年2月から2017年2月までは、3ヶ月に1回測定



歩道にある街路樹(ツツジ)の植え込みで、地面から1cmの空間放射線量を測定している様子

★写真左側のポリ袋が被せられている計測器は空間放射線量測定器。表示されている数値

0. 117 マイクロシーベルト($\mu\text{SV}/\text{h}$)

★写真右側の青色の計器はストップウォッチ。測定時間間隔を測るために使用

空間放射線量 定点測定地

(四葉および徳丸地域)

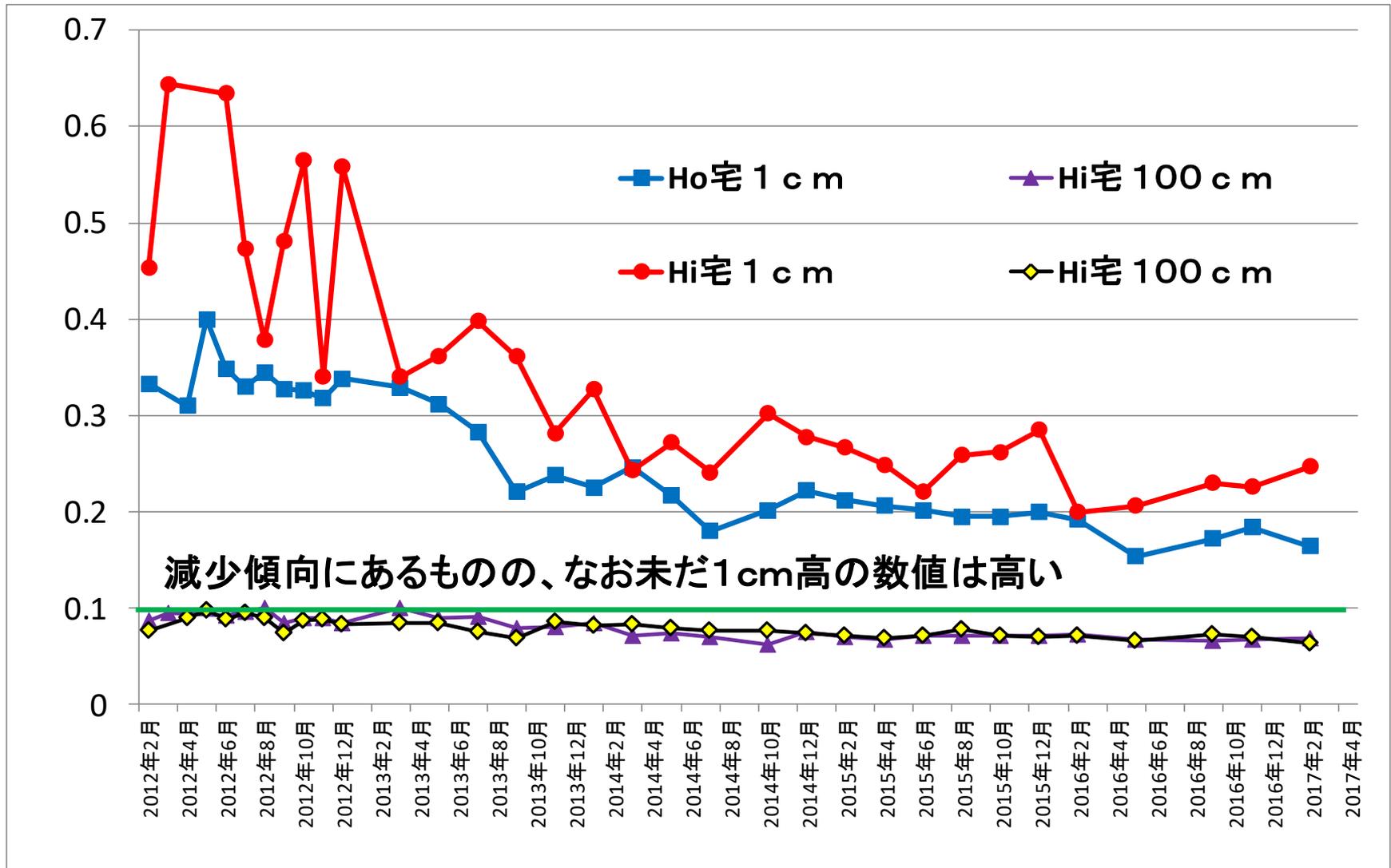
類別	測定地	地点数
住宅	5箇所	(5地点)
公園	7箇所	(9地点)
農園	1箇所	(1地点)
空き地	1箇所	(1地点)
道路	2箇所	(2地点)
合計	16箇所	(18地点)



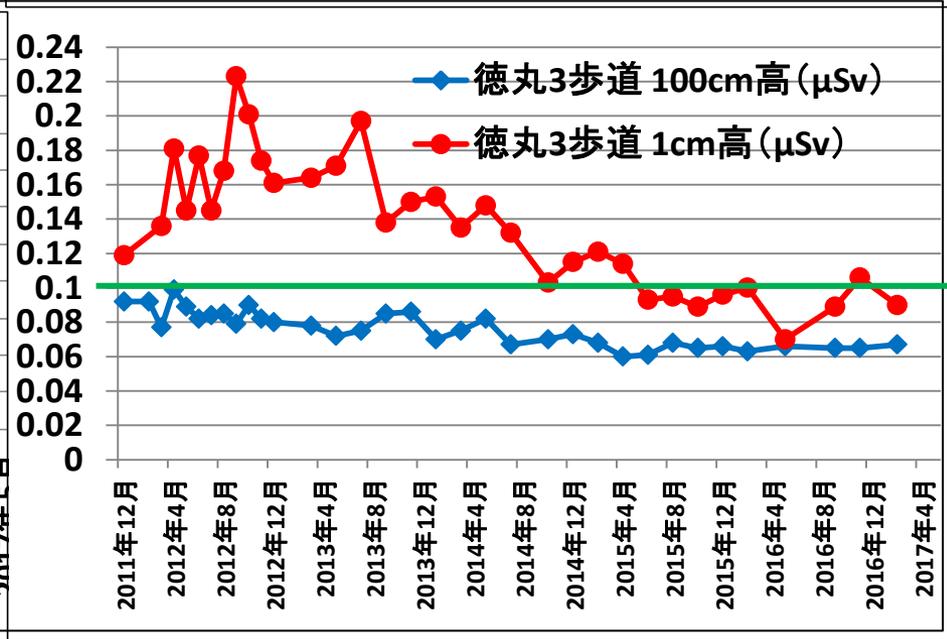
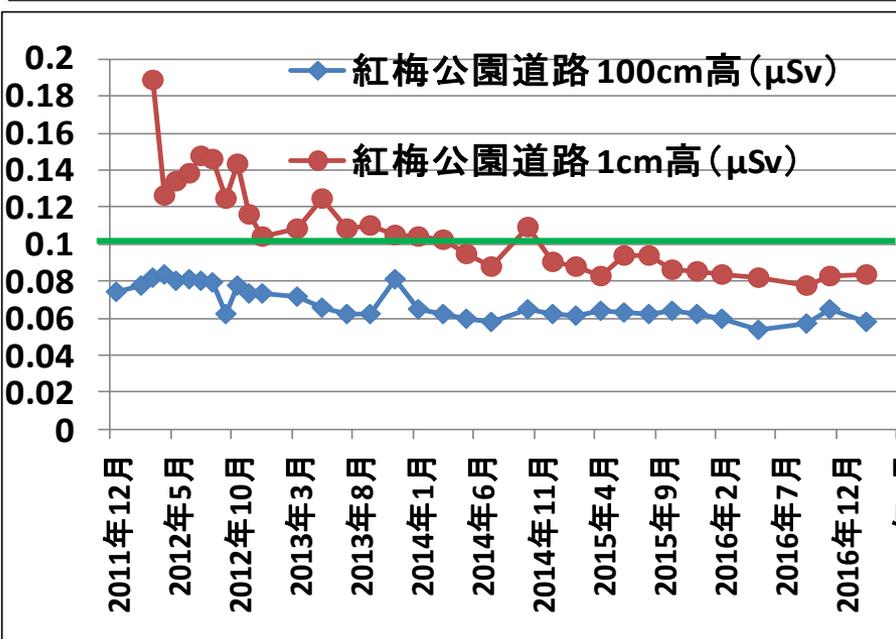
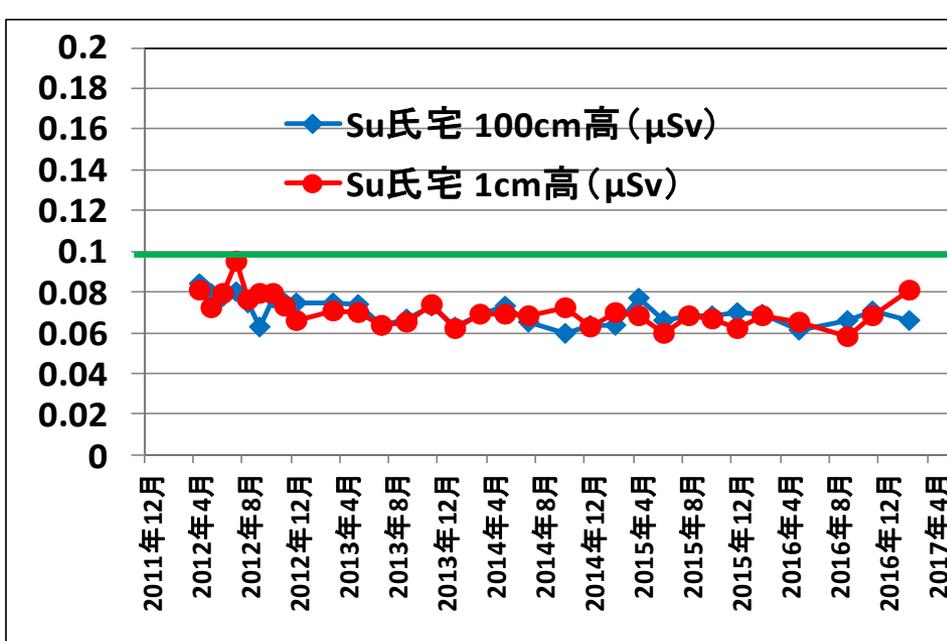
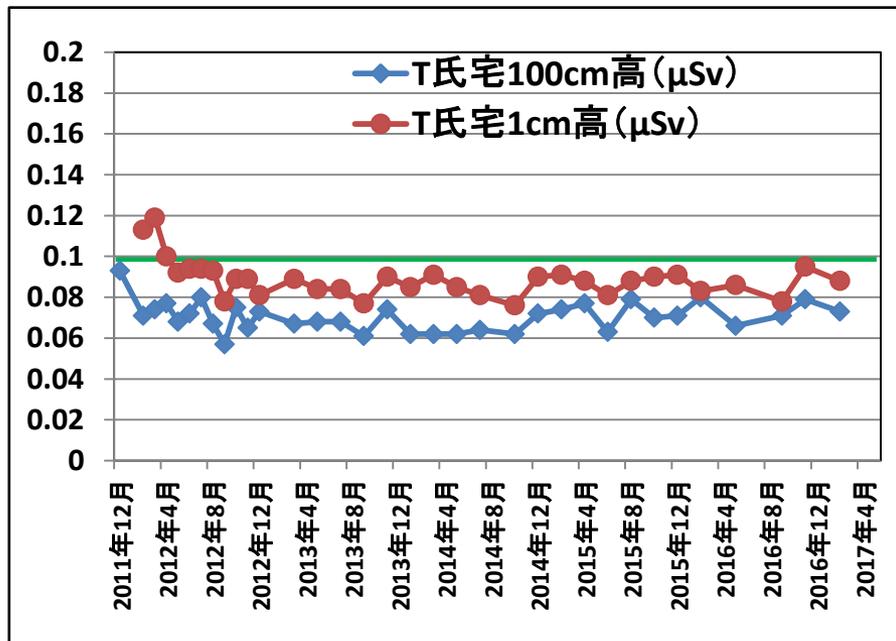
* 極小地域の空間放射線量高濃度地点 *

ミニミニホットスポット

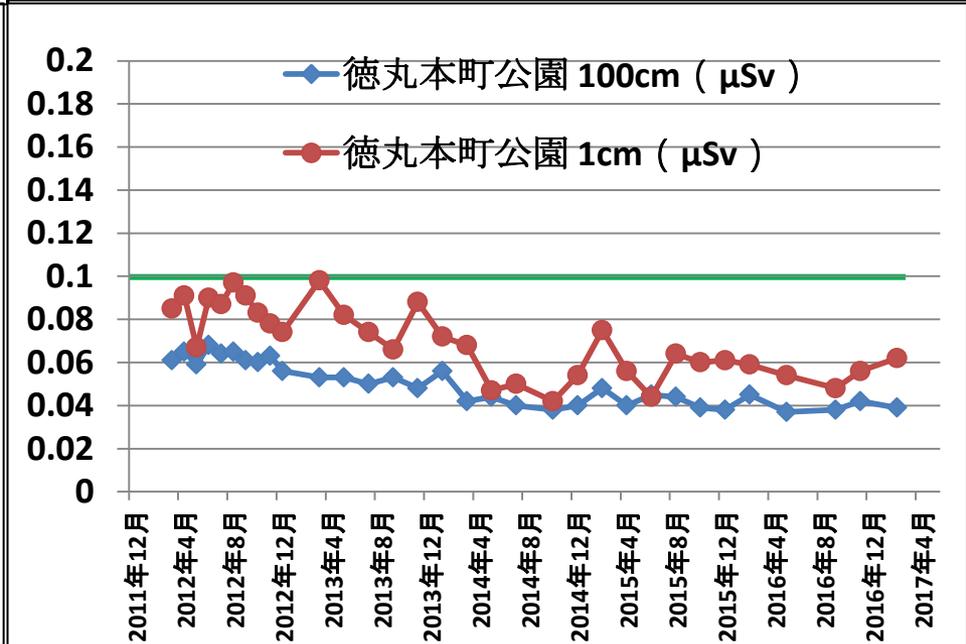
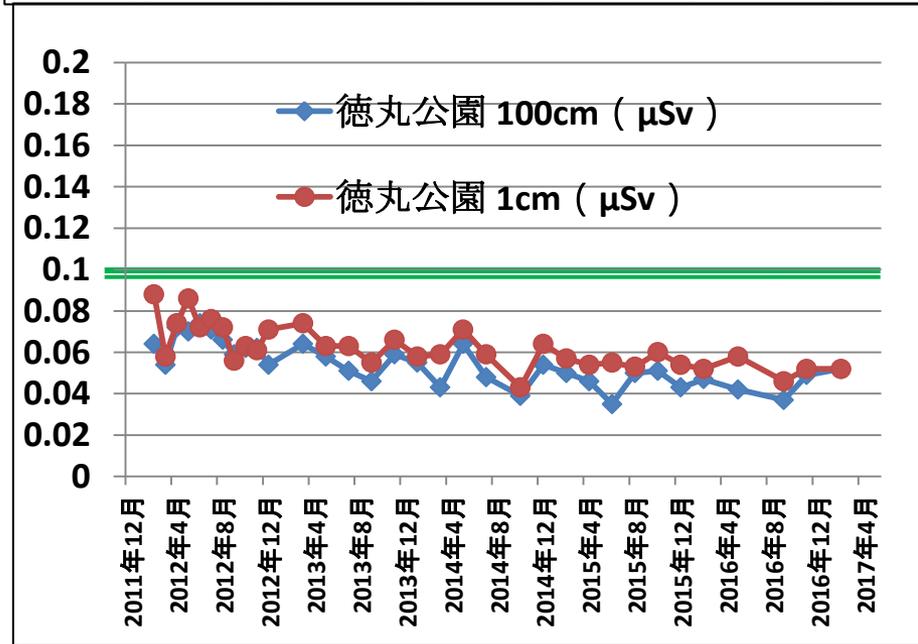
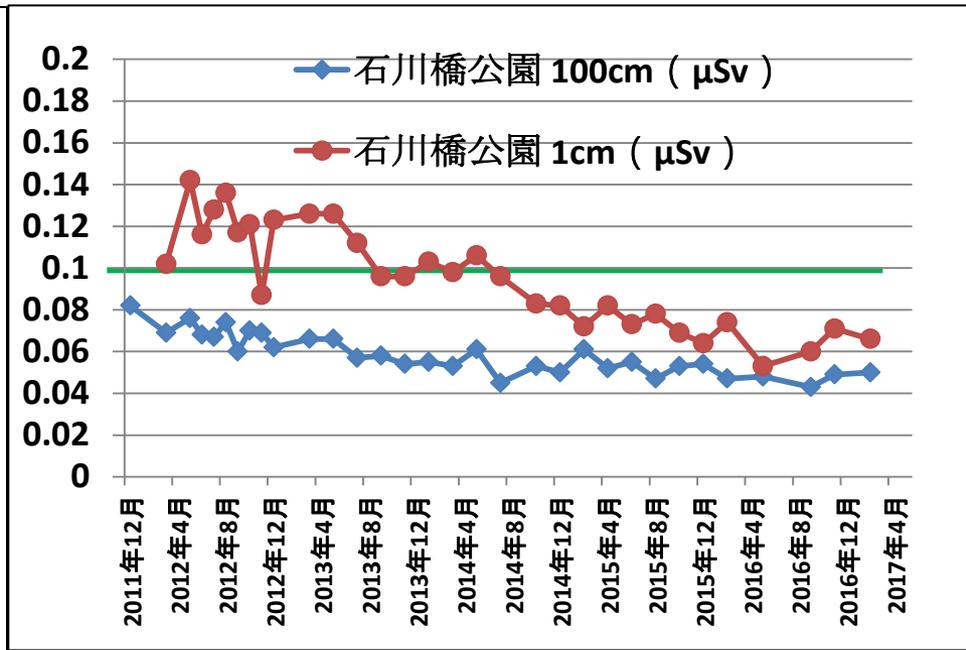
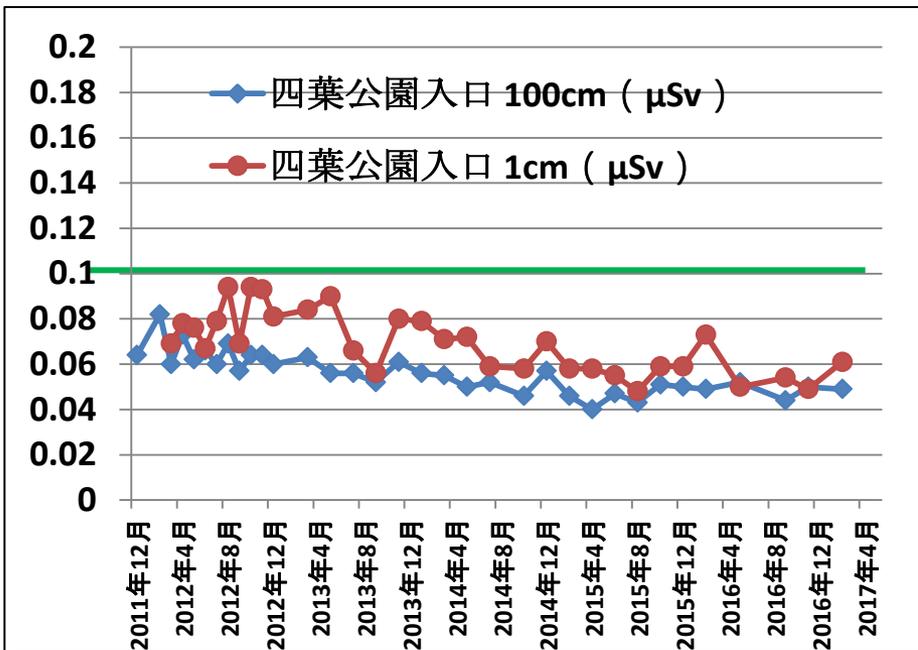
μSv/h



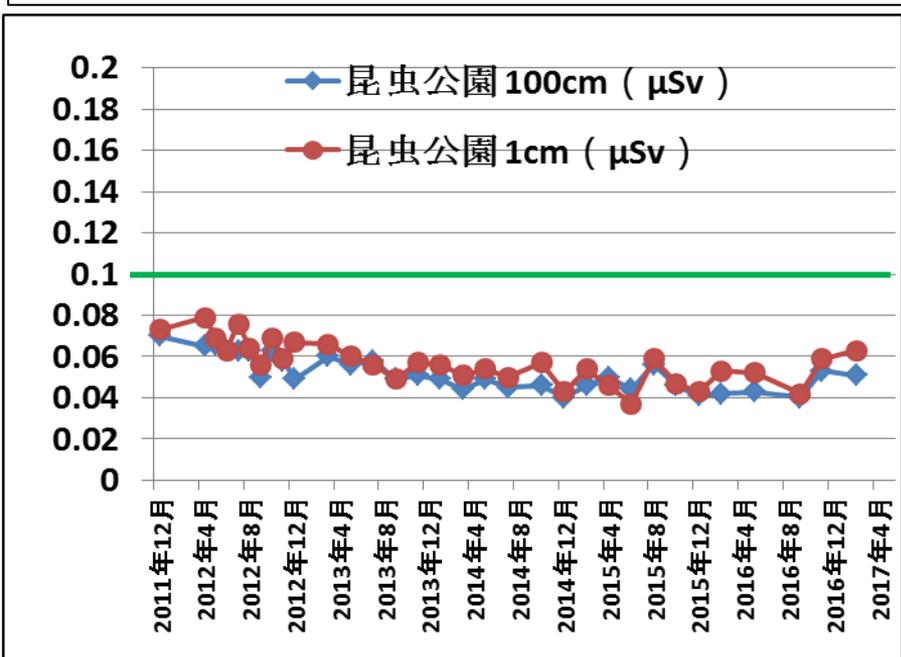
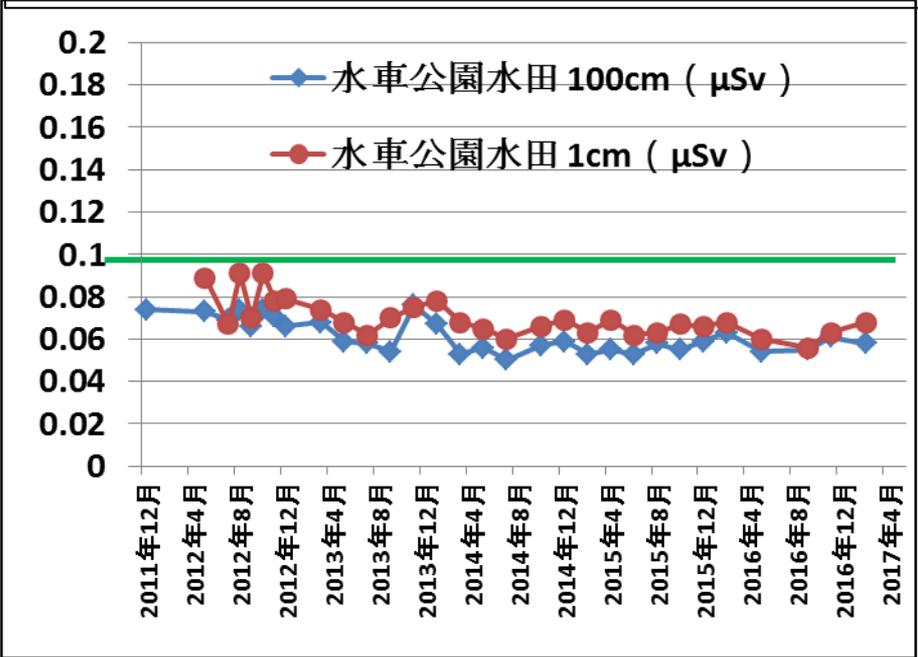
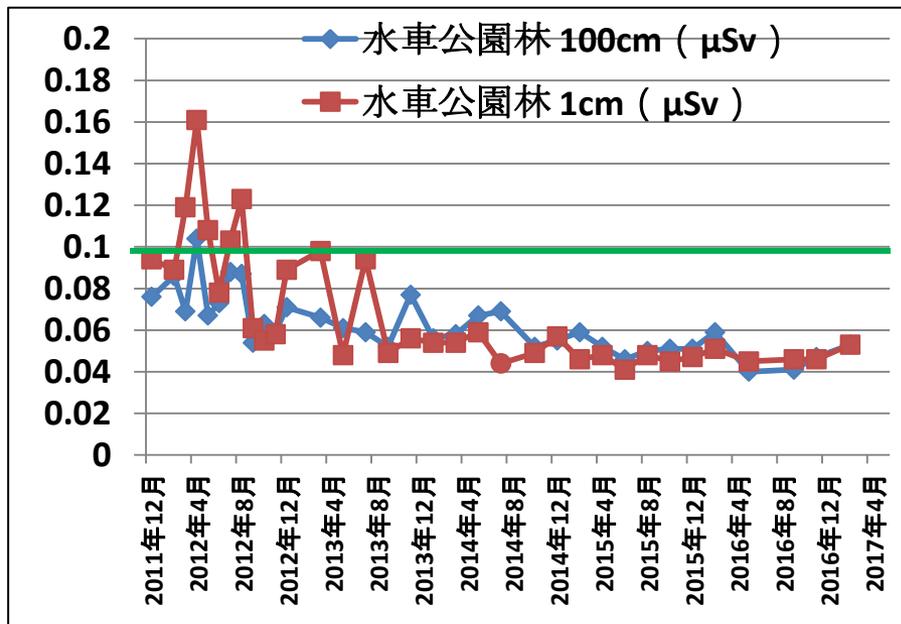
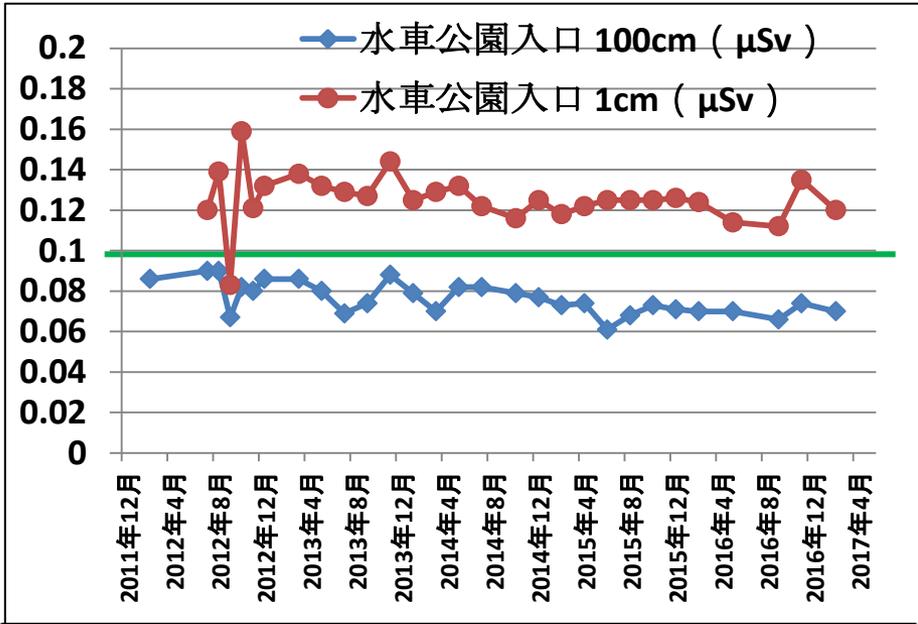
住宅地、歩道における空間放射線量(マイクロシーベルト/時; $\mu\text{Sv}/\text{h}$)



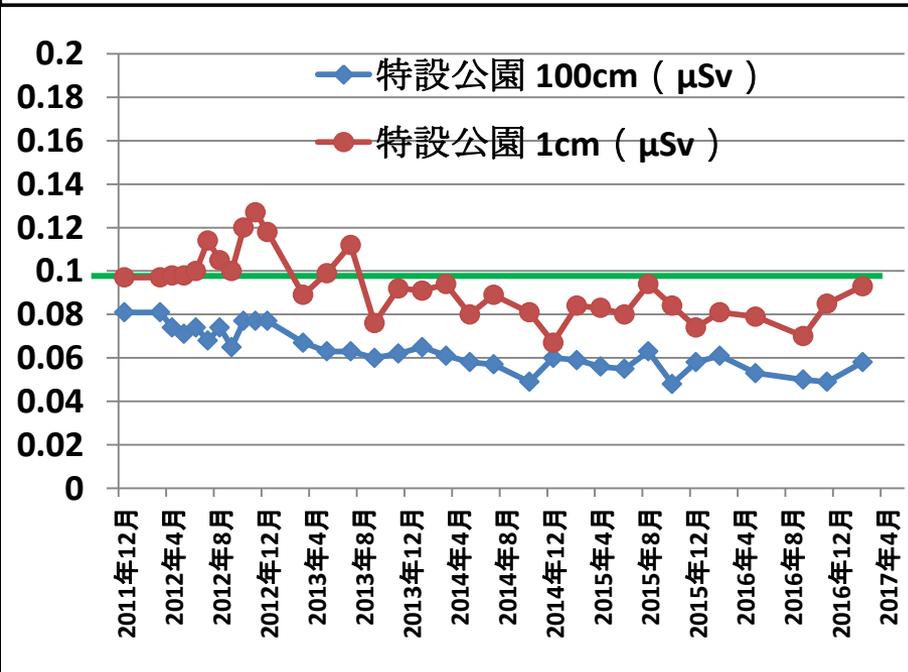
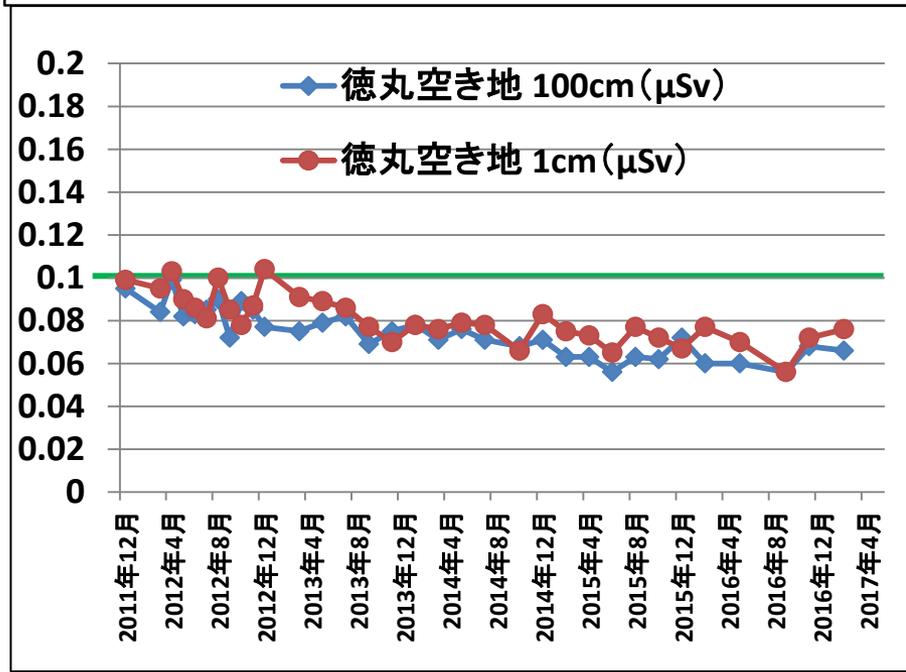
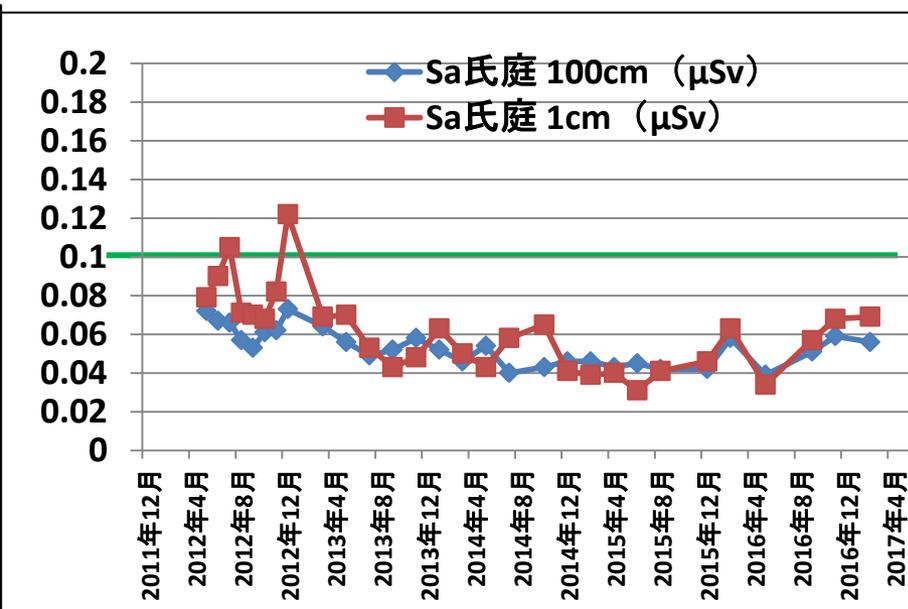
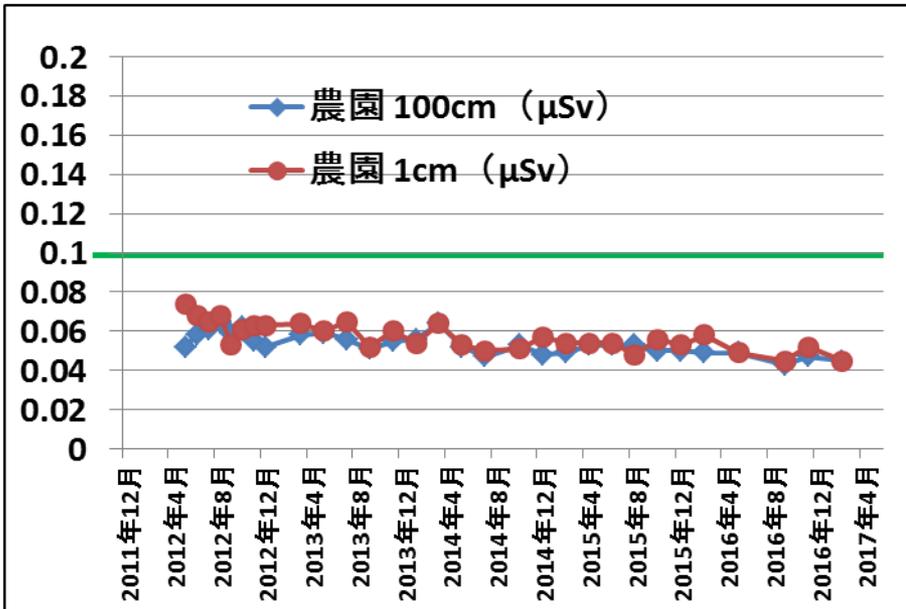
公園における空間放射線量(マイクロシーベルト/時; $\mu\text{Sv}/\text{h}$)



水車公園等における空間放射線量(マイクロシーベルト／時; $\mu\text{Sv}/\text{h}$)



農園等における空間放射線量(マイクロシーベルト／時; $\mu\text{Sv}/\text{h}$)



測定結果のまとめ

板橋区四葉、徳丸地域における、2011年12月から2017年2月までの5年間の空間放射線量(マイクロシーベルト/時、 $\mu\text{Sv/h}$)測定値の概要

1. 住宅地(玄関)の100cm高では、**おおよそ0.06**に下がってきた。
しかし、地面では、**まだなお、0.09程度**を示しているところもある。
2. 歩道の100cm高では、**おおよそ0.06**にまで減少してきた。
しかし、植え込みの地面では、**0.1から0.08**でまだ高いままであった。
3. 公園の100cm高では、**0.05程度**にまで減少してきた。
しかし、水車公園入口石畳の1cm高で、**0.12の高い値**が記録されている。
4. 農園は**0.04程度**下がり、水田は**0.06~0.07**で横ばい状態である。
5. 樹木の多い広い庭内で、**約0.04**に減少したが、庭先では**約0.06**であった。
徳丸空き地は、**0.06~0.07**で横ばい状態にある。
6. 極小地域の高濃度地点の100cm高では、**0.07程度**で横ばい状態であるが、
1cm高では、**今なお0.16~0.25の高い数値**を示している。

測定結果から、さらに考えること

1. 福島第一原発および周辺地域で、今なお高濃度の空間放射線量が観測されている現状にあります。福島市が放射線汚染状態から原状復帰(0.04 μ Sv/h)となるには、2017年の今から約268年先になるそうです。
2. 自らの手で空間放射線量を測ること(モニタリング)により、環境汚染の実態を認識し、理解することが、どのような生活環境が望ましいのかを考える上で重要な拠り所になるとますます強く思います。
3. 空間放射線量の数値の意味を知り理解することの重要性はさらに増大していると感じます。
4. より安全で安心できる環境で生活し続けたいと願う気持ちから、環境を汚染し、破壊している原因や発生源を取り除きたくなることは極めて自然なことではないでしょうか？
5. 放射性物質の拡散や汚染に対して常に警戒心を持ち、生命や生活への不安や懸念を払拭していく強い行動力がさらに必要であると考えます。

ご静聴ありがとうございました



節分草

2017年2月12日赤塚植物園にて撮影